

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 オンライン授業研究会

テーマ 特別支援学校ならではの動画教材づくりについて考える
～「学びたい」を支えるオンライン授業を目指して～

取組のポイント・成果

取組の内容とポイント

当グループは、主に小学部高学年の担当をしている職員で構成されている。今年度新設のグループで、コロナ禍の中、手探りの状態でオンライン授業に取り組んでいた。それぞれの得意分野を活かしながら協力し合い授業を行ってきたが、共通した基礎的・基本的な知識や技術の拡充が必要だと感じていた。そこで、よりよいオンライン授業の実践を目指し、「話し方」「魅せ方」「ICT活用」の基本について、講座の受講や研修を実施した。

- ① 7月15日(水) 18:30～20:30 江崎あずみ氏
「オンラインでもオフラインでも伝わる話し方」
- ② 7月29日(水) 18:00～21:00 杉山三四郎氏・杉山千恵子氏
「絵本読み語り講座」
- ③ 9月30日(水) 18:30～20:30 松浦 祐介氏
「ICTの機材紹介と現在におけるICTにおける授業実践について」

成果

- ① 7月15日(水) 18:30～20:30 江崎あずみ氏
「オンラインでもオフラインでも伝わる話し方」

研修内容：話し方の基礎・基本について、実際のオンライン授業の評価、質疑応答
江崎氏の研修のまとめ

「伝えた」つもりでも「伝わって」いないことがある。「伝える」の主語は「私」。「伝える」の主語は「あなた」。「伝える」とは相手が受け取って自ら行動することである。オンラインは、オフラインとは違い、画面が小さく伝えられる情報が少ないが、影響が大きい。映っている人の目線が外れると、子どもの注意も外れるので、必ずカメラを見て話すこと。表情を大きさに見せて伝えやすくすることなど、画面の向こうの相手に伝える話方のポイントを学んだ。また発声練習や表情筋トレーニングの大切さを学んだ。

参加者の感想

表情やボディランゲージで伝わり方が全然違うことが分かり、実践して再確認できた。実践したオンライン授業の見直しができ、児童にどう見えているか分かってよかった。毎日通勤の車の中で発声練習をしようと思った。



② 7月29日(水) 18:00~21:00 杉山三四郎氏・杉山千恵子氏

「絵本読み語り講座」

研修内容：体操、ことばの実験、ことば遊び、絵本ライブなどを通じて表現力を磨く
杉山氏の研修のまとめ

「グー・チョキ・パー」のハンドサインを真似して声に出す体操や簡単なことば遊びを通じてことばの面白さを体験した。擬音語だけでも、イラストだけでも、読み方次第で子どもと面白さを共有することができる。オンラインでもやり取りを楽しむことができる。絵本を使って一緒に遊び学ぶことができる。本の読み方に決まりはない。子どもの反応を見ながら自分も楽しみながら読んでほしい。



参加者の感想

絵本の世界に吸い込まれて、すごく楽しかった。子どもたちにもこの楽しさを知らせたい。相手を引き付ける読み方に学ぶことが多かった。子どもは本だけでなく読み手の顔も見ながら聞いていることが分かったので、表情に気を付けて読み聞かせをしたい。読む人によって表現や面白いポイントが変わることが分かり、もっと考えていきたいと思った。

③ 9月30日(水) 18:30~20:30 松浦 祐介氏

「ICTの機材紹介と現在におけるICTにおける授業実践について」

研修内容：なぜICTを活用するのか、ワークショップ(iMovie 動画編集)、ICT最新情報
松浦氏の研修のまとめ

視線入力機材やOriHimeなどの遠隔操作機器の実際体験を通じて最新機器について知り、機器の活用に活かしてほしい。またiMovieの操作方法を通じて動画編集の基礎を学ぶとともに、簡単に編集ができることを実感してほしい。ICT機材に触れることにより、今後の児童生徒への指導支援のきっかけとしてほしい。

参加者の感想

最新の機器を見たり触ったりすることができてよかった。視線入力のゲームなど肢体不自由の子どもでも楽しめることがすごいと思った。思ったよりも簡単に動画が作れることが分かったので、児童生徒と一緒に作ってみたい。



今後の課題

○研究の課題

構成員のニーズを優先した研修内容だったため、系統だった学びにはつながりにくかった。事前に専門家への相談や、実際の授業を具体的にイメージした研修を計画する必要がある。

○今後の方向性

対面授業とオンライン授業の併用が求められていると感じるため、今後も自主研修を継続して行えるように検討したい。

○還元の方法

勤務校において研修資料の共有や、オンライン授業についての自主研修を開催する。